

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2011.10.1

No.87

ヒューマニズムということばをよく聞くと思います。辞書で引くと「人間性を称揚し、さまざまな束縛や抑圧による非人間的状態から人間の解放を目ざす思想」とか「人道主義」とあります。人間たちが困っているとき、助けてあげようといういい意味で使うことが多いでしょう。人間が生まれながら尊厳を持ち、尊いものなので力のあるものは弱い立場の人々を助けるべきだという聖書的な発想から出てきています。

一方「世俗的ヒューマニズム」というものがあります。これは前者と言葉では似ていますが意味はかなり違います。簡単に言えば、人間中心、人間至上主義です。神に最高のものとして造られたからではなく、進化の頂点に立っているから自分たちの考えで進んでいくのだと考えています。聖書とか創造主を社会から締めだそうという意図的な「宗教的思想」なのです。このような考え方をまとめた「ヒューマニスト宣言」というものがアメリカのヒューマニストたちが一九三三年に出されました。

「世界は自らで存在しているのであって、造られたのではない、と宗教的ヒューマニストたちはとらえる。」
これが第一項です。聖書がいう創造主なんて



ヒューマニズムの落とし穴

いない、と冒頭から宣言し、この考え方が宗教的であることを認めています。

「ヒューマニズムは、人間は自然の一部であり、連続過程の結果として生じたものであると信じる。」

この第二項からわかるように創造主を否定する代わりに進化論を完全に受け入れていきます。人間が最高であって、聖書や神なんかに頼らなくても幸せになれるのだ、と強調しているのです。

ヒューマニストたちは、このような考え方を社会の中に広めようとした。例えば国連の機関にユネスコがあります。世界の教育・科学・文化の発展と推進を目指して作られたものですが、その初代事務局長はジュリアン・ハクスレーというヒューマニスト宣言を作ったメンバーの一人だったのです。彼らは教育を通じて働きかけることが最も効果的であることを知っていたのです。

四十年後に改訂版の宣言を作りました。「永遠の救いとか永遠の裁きを恐れるということはいずれも幻想で害を持つものである。それらは人間の現在の関心、自己表現、社会不正の是正から人間を引き離すものである。」

人間社会の発展を妨げているのは聖書の考え方であり、それは個人の価値を引き下げ、自由を押しさえつけ、知性を愚かにしていると語ります。「個性を消すような道德規準のすべ

てを拒否し、個人の選択の自由を増強すべきである」とも書いています。要は絶対的な基準などはない、自分たちが良いと思ったことは良いのであって、人間にはその自由があるのだ、ということです。

果たしてそうでしょうか？今から三千年前のイスラエルの国でも同じような状況でした。

「…そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行なっていた。」

(士師記二十一章二十五節)

進化論からは「人間の尊厳」という考えはできませぬ。「偶然によってこんなふうに進化してくれてすごい！ラッキー」という程度です。そしてヒューマニストたちは、今存在しているのだから自分たちを基準にしてもいい、自分たちを神としてもいいと考えることにしたのです。

聖書は、人間は創造主によって造られたからこそ価値があるといえます。偶然ではなく目的を持って置かれているのです。だから「意味」があります。ところが神から離れることによって、その良さを示すことができなくなると聖書は語ります。聖書が人間を窮屈に、不自由にしたのではなく、神から離れることによって自らの首を絞めるようになってしまったということです。

今なお、ヒューマニストたちが私たちの気づかないうちに広めようとしているこのような世界観にみなさんは賛同しますか？私は聖書の世界観を選んでいくものです。

ユース・セミナーというのは日本全国の若いクリスチャンが集まって聖書について学び、交わるセミナーです。今年も例年どおり、私が集っている東住吉集会所が主催させていただくことになりました。総勢一八〇名近くの若いクリスチャンが参加しました。

セミナーのメインテーマは「ゴールを見据えて今を生きる」です。三月十一日に起こった東日本大震災を受けて、日本中の若いクリスチャンが今をどう生きるべきなのかと考えました。

メインの学びとは別に、自分にあったテーマを選択できる分科会がありました。私は「自己管理」、「誘惑」、「異性」を選びました。それぞれ今の若者に必要な学びでした。私にとつて「自己管理」が一番心に残りました。時間や体力は神様から与えられたから、神様のために使う、ということを教えられました。

私たちは学びを聞くだけではありません。学びを受けて、教えられたことを同年代のクリスチャンと分かち合う時間が持たれました。去年と比べて、中高生のクリスチャンが増えています。学校でどのように神様について証しているのか、集会でどのように仕えているのか、どのようにすればもっと若者たちが集会に足を運んでくれるだろうか、など色々なことを話し合うことができました。

一泊二日のセミナーはあつという間でしたが、多く教えられた二日間でした。

↓ロッジを一つ借りきって家族キャンプ。目の前海で環境グッド。学びと証しの準備に夜更かししました。



→高松集会所のみなさんと。向こうに見えるのは小豆島。天気も抜群で温泉も最高！

こんなことしました！ 行事報告

九月

九日 玄遠社書展（大阪市立美術館）

祖父・祖母来阪一周年記念食事を

十日 老健施設「くれない」へ

（日曜学校より慰問）

十七日 一兄H姉妹来訪

十七〜十九日 ユース・セミナー

（国際ユースホステル）

二十二日 太鼓の鼻オートキャンプ場で宿泊

二十三〜二十四日

高松集会所学び・交わり会

（グリーンヒル大串）

二十七日 音楽の集い（JCにて）

二十八〜十月二日 仙台ハボランティア(Y)

高松集会所に行ってきました

九月二十三〜二十四日まで「大串グリーンヒル」に行ってきた。渋滞や台風の影響で通行止めになった所もあり三時間半かけて高松に着きました。今年もキャンプが始まる一日前に高松へ行って

「太鼓の鼻オートキャンプ場」というところで、家族で、泊まりました。そのキャンプ場は、机も寝具も無いところでしたが、前には海があつて夜は大阪では見れない夜空が見えました。食事も全部自分で用意してサバイバル気分でした。

そして次の日に高松キャンプが始まりました。集合場所に集まると、すぐうどん屋さん「源内」に行きました。僕はそこでカレーうどんを食べましたが、やっぱり大阪で食べるうどんとはけた違いのおいしさでした。去年も行きましたが、今年は少し違って子供達の世話を担当しました。大人たちの集会中に、子供達の世話をするというので、一週間前ぐらい前から、ぬり絵を作ったり、ゲームを考えたりしました。かなり大変でした。でも、試行錯誤するのも楽しかったです。子供たちが成長していて、びっくりしました。あと食事がとても豪華でオートキャンプ場で食べた食事とのギャップがすごかったです。芝生で遊ぶこともでき、温泉にも入れてとても楽しかったです。最後に賛美集会所もあって充実した二日間でした。

編集後記

妻が四日間東北地方へボランティアに行っている間、女の子たちが主婦業を見事にこなしました。男連中もそれなりに活躍しました…。